京都産業大学

ことばの科学研究センター

2021 年度 第 5 回研究会

11 月 24 日（水）15:00～17:00

第二研究室棟会議室および Teams によるオンライン開催

オンラインによる参加の場合のみ center-lg-studies@cc.kyoto-su.ac.jp へメールでお伝えください

島　憲男

ことばの科学研究センター 研究センター員・　外国語学部教授

構文の機能的役割：宮沢賢治のドイツ語訳テキストを手がかりに

今回の発表では、これまで発表者が関心を持ってきたドイツ語構文のいくつかを取り上げ、当該構文がテキストの中でどの程度実際に使用され、どのような役割・効果を担っているかを調査した結果を報告する。

発表者は、これまで主にドイツ語を原典とするテキストを使ってドイツ語の構文分析を進めてきたが、今回は**日本語からドイツ語に翻訳**された宮沢賢治の複数の作品を用いて、これまでの研究成果が単に検証されただけではなく、新たな展開の可能性が提供されたことを示したい。さらに可能であれば、発表者が現在取り組んでいる「構文間の文法的ネットワーク」の中でそれぞれの構文をどのように位置付けることができるのか、その方向性も合わせて提示したいと考えている。

なお、取り上げる構文は、①**結果構文**（事態を引き起こす基底動詞と結果状態を表す結果句の相互作用によって名詞句の最終結果状態を確定させる構文）、②**同族目的語構文**（自動詞を基底動詞としつつも文中に同語源である対格名詞が生起する構文）、③**オノマトペ**（擬音・擬態表現）を有する表現を予定している。